

Card Seek ブロマガ(最終回)

2012 年 6 月 29 日 号

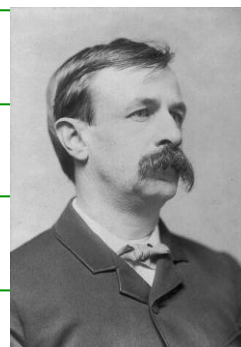
「 未 来 の 夢 」

小 河 俊 紀

112 年 後 が 見 え た 男 ベラ ミー

19 世紀 末 の 小 説 家 に 、 エ ド ワ ー ド ・ ベラ
ミー という 人 が いる 。

産 業 革 命 只 中 の 1850 年 に ア
メ リ カ で 生 ま れ 、 1888 年 に 「
顧 り み れ ば 」 と い う ユ ー ト ピ ア 小



説 を 発 表 し た 。 当 時 、 マ ル ク ス の 資 本 論 に 匹
敵 す る ベ ス ト セ ラ ー に な っ た と い う 。

あ た か も 112 年 後 の 世 界 に タ イ ム ス リ ッ
プ し 、 一 般 市 民 の 日 常 を の ぞ き 見 て 書 い た か
の よ う な リ ア ル な 予 言 書 だ 。

「 西 暦 2000 年 の ボ ス ト ン に は 、 高 い ビ
ル が 林 立 し 、 街 角 に は 女 性 の 家 事 を 軽 減 す る
外 食 産 業 が 栄 え る 。 市 民 は 、 自 宅 で 電 話 回 線
を 通 じ て 臨 場 感 溢 れ る 音 楽 を 楽 し む 。

給 与 も 年 金 も 、 ク レ ジ ッ ト カ ー ド の 利 用 枠

として支給される。利用枠は、働きに応じて毎年更新される。海外でも利用できる。消費者は見本だけ陳列された店舗で、詳しい商品タグと見本商品を確認して注文する。支払いはすべてカードだ。購入商品は、大きな共同倉庫から即日宅配される。

貧困が原因の無用な争いも、所得格差もない平和社会が実現している。」(以上、研究社1975年版「かえりみれば」から筆者の言葉で要約)

予言とは何か

電話回線での音楽視聴や、商品見本しかない店舗でのキャッシュレスショッピングは、正にネット社会を暗示する。

ちなみに、1888年(日本は、明治21年)当時は、インターネットどころか、クレジットカードさえ存在しない時代だった。

2012年の今では、ネット回線で高音質の音楽ダウンロードはもちろん、ほとんどの商品は在宅で安く早くカードでネット購入で

きる。長く消費をリードしてきた家電量販店も、いまやアマゾンのショールームのようである。ネットスーパーは生活物資を安価に即日配達してくれる。

残念ながら、貧困が原因の争いも、所得格差もまだ解消していないが、国際レベルでは、B R I C S や東南アジア諸国の著しい台頭に加え、先進国の不況もあって経済格差は確実に縮まりつつある。

「顧みれば」を友人の勧めで初めて読んだのは、6年前（2006年）だった。鳥肌が立つような衝撃に襲われ、それは現実世界の進展に応じて、今もなお意味が深化している。

そういう観点で、予言とは、単なる直観ではなく、次世代に向けて強い意志で描かれた夢（想像力）であり、プランである。

私の夢

「売上金を回収する前に、運転資金が途切れて発生する中小企業の倒産を撲滅したい」

それが、私の夢だ。

売上に応じて、商品仕入れをカード決済する独自のビジネスモデルを追求するため、還暦を過ぎて動き回る私を「変わっている」と評する知人がいる。口に出さなくても、そう見ている人は少なくないだろう。

私自身、還暦間際にその着想が突如閃いたのも不思議だし、少なからぬ自費を投じてでも特許にしようと考えた心理も、正確には自己分析できていない。

幸い、5年前に特許になったので、以来、いろいろな人に接触し、提言してきた。

無視・聞き流しはもちろん、「誇大妄想」と皮肉られたことも再三ある。いまだに特許



料収入は得ていないので、まるでドンキホーテのようだ。

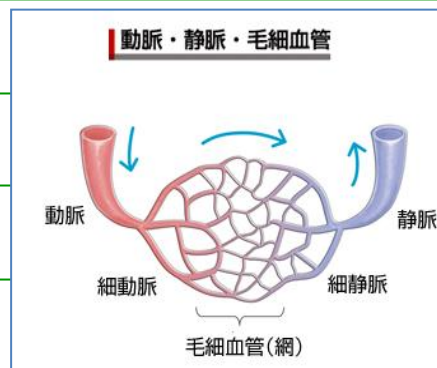
ただ、一昨年あたりから、ネット社会の進展が追い風となり、「実現したら、大変な社会貢献だ」と激励していただく機会が増えてきた。それが心の栄養だ。

究極のキャッシュレス社会

ベラミーは「顧りみれば」の中で、企業間取引でのカード決済については一切触れていない。産業全体を国家が統制している、という社会主義的な舞台設定だからだろう。しかし、その後の世界史を見ても、国家が統制できる経済領域には限界がある。

中小企業とは、人体で言えば「毛細血管」のようなものだ。血液にあたるオカネとモノが毛細血管までスムーズに流れないと、全身（経済全体）が衰弱する。


私はベラミーのような天才でも、学識者でもない。平凡な庶民だ。しか



し、もし私の夢に共感の輪が増え、多くの関係者の意思となれば、夢は必ず現実化するだろう。 (完)

結びに

今年1月から開始したこのブロマガも、当初予定の12回目、最終回を迎えました。

東日本大震災への追悼として「地域と絆」	
をテーマに、拙文ながら身近な雑感を短文で	
書き綴ってきました。	
各回完結・隔週発行といえども、100名	
近いさまざまな読者の方々に、上滑りのない	
文章を書く事は、正直大変でした。	
しかし、メールや電話・対面で共感のコメ	
ントを沢山いただき、おかげ様で完了できま	
した。この場を借りまして、心からお礼申し	
上げます。	
これからは、最近アップできたホームページ	
で適宜発信して参りますので、よろしくお	
願い申し上げます。	
	末筆ながら、皆様のご健勝
	をご祈念申し上げます。